

ごぞんじですか？ SCPJ

1 はじめに

SCPJをごぞんじでしょうか。フルネームを Society Copyright Policy in Japan という、データベースの名称で、日本語では学協会著作権ポリシーデータベースといいます。SCPJは、研究者が学術雑誌に掲載した論文を、自分の所属する機関の機関リポジトリ（以下、IR）や自分のWebサイトから公開しようとする際に、公開が可能なかどうか、可能な場合はどのような条件をクリアすればいいのかを確認するために使うものです。

なぜそのようなデータベースが必要になったのかといえば、商業出版社の出版する学術雑誌の値段が高騰し、自分たちが作成した学術論文を高額でなくては入手できなくなってしまうためです。多くの研究者は自分の作成した学術論文を広く他の研究者に読んでもらい、意見交換をすることでさらに研究を進めたいと考えています。しかし、学術雑誌の値段が上昇したため、高額の学術雑誌を購入できる機関に所属する研究者にしか読んでもらえないことになります。このため、自分の作成した学術論文を自分自身もしくは所属する機関のWebページから公開し、自由に他の研究者に読んでもらおうという運動が起こりました。この運動をOpen Accessと呼んでいます¹。ただし、個人のWebページの場合は、契約するプロバイダが変更になる場合等があり、安定して長期間保存するという目的にはそぐわない面があります。そのため、機関単位で所属する研究者の学術論文を収集公開するIRが出現し、近年広く普及しつつあります。

しかし、IR等から公開しようとした場合、掲載された学術雑誌によってはどのような形であっても公開が認められていない場合もあり、まず著作権ポリシーと呼ばれる掲載に関する条件を知る

が必要になります。欧米では、学術雑誌を発行しているのは商業出版社である場合が多いため、著作権ポリシーを出版社単位で集めたデータベースがすでに存在していました。日本でも同様の要望が起きたのですが、欧米と違い学術雑誌を学協会が発行している場合が多く、学協会単位で著作権ポリシーを集めたデータベースが必要になります。そのために作成されたのがSCPJなのです。

2 SCPJプロジェクトとは

SCPJは、国立情報学研究所（以下、NII）の学術IR構築連携支援事業の一環として作成されています。初期データは、2005年に国立大学図書館協会の学術情報委員会の小委員会であるデジタルコンテンツ・プロジェクトが調査した結果を利用しています。この調査は、「学会名鑑2004～2006年版」²に掲載された1,730学協会を対象として実施し、50%近くの回答がありました。その段階では、著作権ポリシーを決めていない、検討中と回答した学協会が全体の75%を占めていました。デジタルコンテンツ・プロジェクトではこの調査を実施し、レポートを発表したに留まったので、その活動を継続する（具体的には調査結果をデータベースにして公開し、未回答の学協会を中心にさらに調査を継続し、学協会に対して著作権ポリシーを検討し論文の掲載を認めるように働きかける）別の新たな組織が必要とされました。このため、NIIからの事業募集に対し著作権ポリシーについての活動を個別に応募した、筑波大学・千葉大学・神戸大学の3大学によるSCPJプロジェクトが発足しました³。

プロジェクト内の分担は、2006年度からの2年間は、公開を筑波大学、プロモーションを千葉大学、調査を神戸大学が担当しています。データ

ベースは、2007年3月28日に公開され、11月にリニューアルを行っています。プロモーション活動としては、学協会に所属する研究者や事務局担当者等を対象としてワークショップ等を開催するとともに、図書館側の担当者に対してもNIIでの講習会等を通して活動報告及び調査への協力依頼を行っています。調査は、最初の調査で未回答だった学協会をはじめ、根拠とした名鑑に掲載されていない、あるいは回答はあったが回答内容をデータベースで公開することを認めなかったところを対象として継続的に実施しました。この結果、掲載論文の公開を認める学協会の数が、少しずつではありますが、増加しています。

日本の学協会は、規模も大小多様なため、事務局も専任の方がおられるところもあれば毎年回り持ちで移動していくところもあり、効率的な働きかけはなかなかできません。地道に個別に対する活動を続けることが重要であると認識しています。

3 SCPJデータベースとは

すでに述べましたとおり、学術雑誌をはじめ、さまざまな雑誌に掲載された論文には、著作権の一部が雑誌の発行元である学協会側に譲渡されているものがあります（このことは通常、各雑誌の投稿規定などに明記されています）。このため、雑誌に掲載された論文を別の場所から公開する場合、たとえばIRや、著者個人のWebページで公開する場合には、著者自身が承諾するだけでなく学協会の承諾も得なければならない場合があります。

ただし、個々の論文ごとに学協会に確認していたのでは、問い合わせる側も受ける側も双方ともに大変煩雑です。そこで、学協会ごとに公開についての方針（ポリシー）を決めて、そのポリシーの下に、雑誌以外での公開の是非を決定するところが多くなってきました。SCPJデータベースは、そのような学協会の公開に関するポリシーを集めて、簡単に確認できるようにしたデータベースです。

SCPJデータベースのメリットとしては、まず、IRに登録したい人にとって、データベースを検索することで、論文ごとに学協会に問い合わせることなくスムーズに登録することができるという点があります。また、問い合わせを受ける学協会にとっても、データベースにポリシーを提供・公開することで、煩雑な問い合わせを減らすことができるというメリットがあると考えています。

現在、SCPJデータベースは、SCPJプロジェクトの主担当をしている筑波大学附属図書館のサイトを利用して公開されています（URL：<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/scpj/>）。

ページを見るとおわかりいただけますように、学協会名からも学協会誌の誌名からも、学協会のポリシーを検索することができるようになっています。また、登録されているデータは、ポリシーの内容によって5種類に色分けされており、色によってポリシーが判別できるようになっています。5つの色分けは以下のとおりです。

表1 著作権ポリシーの色分け

色	意味する著作権ポリシー
Green	査読前原稿・査読後原稿どちらも登録を認める
Blue	査読後原稿のみ登録を認める
Yellow	査読前原稿のみ登録を認める
White	リポジトリへの登録を認めない
Gray	リポジトリ登録についてのポリシーが未定もしくは未調査

検索結果には、色分けによる表示以外にも、出版された形での論文をそのまま使用してもよい、IR以外の場所（たとえば著者個人のWebサイトや研究資金助成機関のWebサイト、非営利電子論文アーカイブなど）において公開してよいかどうかといったことや、公開にあたっての諸条件（たとえば出典表示を行うことなど）等が記載されています。データの詳しい見方については、SCPJデータベースのWebページの「検索結果の見方」（URL: <http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/scpj/example.html>）をご覧ください。

SCPJデータベースはSCPJプロジェクトが開始された2006年の9月に構築を開始し、2007年

3月に正式公開しました。構築の際のデータは、SCPJプロジェクトの前身となった、国立大学図書館協会のデジタルコンテンツ・プロジェクトで行われた、学協会の著作権ポリシーに関するアンケートの回答を基にしています。

その後も、協力大学の神戸大学が中心となって学協会に対しての問い合わせを行い、2008年2月現在で、1,818件のデータが収録されています。

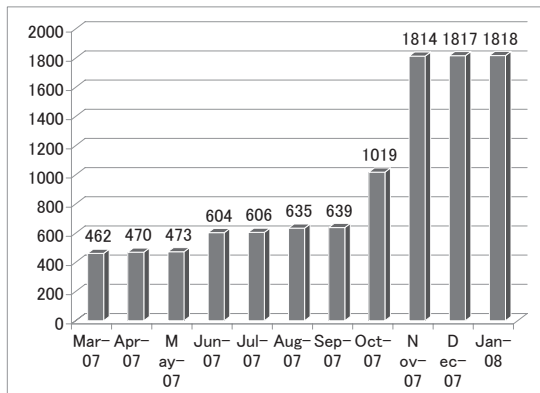


図1 SCPJデータベース登録件数の推移

「学会名鑑2007～2009年版」⁴の収録件数が1,767件ですので、日本のほとんどの学協会を収録しているものと言えるでしょう。

SCPJデータベースのアクセスログを分析したところ、1ヶ月に平均2,600以上ものアクセスがあることがわかりました。そのうち検索エンジンのものを除いた場合、もっとも多いのはIR事業を進めている日本の大学からのアクセスで、2割以上を占めています。

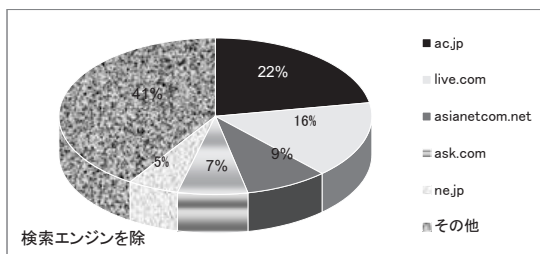


図2 ドメイン別アクセス数
(2007年3月～2008年1月)

データベース公開後からのアクセス数の推移をみますと増加傾向にありますので、徐々にではあ

りますが、学協会の著作権ポリシーを調べるサイトとして認知され利用されつつあるものと考えられます。

海外でも同様のデータベースがあり、特に英国のSHERPAが構築・運営しているSHERPA/RoMEOデータベース⁵が非常に有名です。SCPJデータベースは、日本国内の学会・協会の著作権ポリシーを対象としています。SHERPA/RoMEOは欧米の学術出版社の著作権ポリシーについて調査を行い、データベース化しています。ちなみにSCPJデータベースは、SHERPA/RoMEOのポリシーの色分けや表示の方法などをモデルとして構築しました。

日本と欧米における学協会もしくは出版社の著作権ポリシーの状況を比較するため、SCPJとSHERPA/RoMEOについて、収録されているポリシーの色別の割合をそれぞれ円グラフに示したものが図3です。

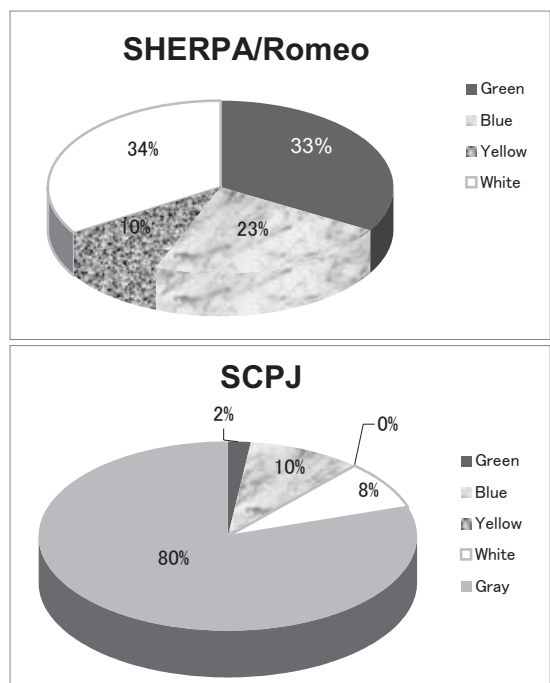


図3 日本と欧米の著作権ポリシーの状況

SHERPA/RoMEOではGreen、Blue、Yellowの合計が全体の約7割を占めていることから、欧米では出版社がIRへの登録等について協力的で

あることがわかります。

一方、日本での状況は大きく異なっています。Grayという色分けはSCPJデータベース独自のものですが、これは、「IRへの登録について方針を明らかにしていない」ということを表しています。つまり、日本の学会・協会の半数以上はIRへの登録の可否についてはまだ検討中であるということです。SHERPA/RoMEOはSCPJよりも早くから構築されており、認知度が高いと考えられることや、体制がしっかりしている出版社に対して学協会では中・小規模なところが多いといったことから、単純に比較することはできませんが、SCPJデータベースも、今後はSHERPA/RoMEOのように、Gray以外の色分けが多くなるようにしていきたいと考えています。

4 今後の課題

SCPJプロジェクトが今後取り組むべき課題としては、次の3点があります。

第一に、3でも述べました通り、White及びGrayの学会が、BlueまたはGreenになるよう働きかけを行うことです。そのためには学協会に対して、IRとは、またはそもそもOpen Accessとは何なのか、そして、学協会誌に掲載された論文をIRや研究者（論文著者）の個人のWebページ等で公開することによる学協会への影響について、十分に説明し理解していただくことが必要となります。これまで、調査の過程やワークショップの場などでこのようなやりとりを行ってきましたが、今後は、SCPJのWebサイトを、SCPJデータベースの提供の場としてだけでなく、学協会の方々にSCPJプロジェクトの活動の趣旨をご理解いただくための助けになる情報を発信できるよう充実させるなど、様々な形でのプロモーション活動を展開していきたいと考えています。

第二に、SCPJデータベースの収録対象を、学協会だけでなく出版社にまで広げていくことです。日本では学協会が発行している学術雑誌が大半とはいえ、出版社が発行しているものも少なからずあります。それらの著作権ポリシーを網羅的

に収集することにより、論文著者やリポジトリの担当者にとってより便利なデータベースにしていきたいと考えています。

第三に、SCPJプロジェクトと同じ目的を持つ海外組織との国際的な連携を実現することです。その足がかりとして、2008年1月、デジタルリポジトリ連合 (Digital Repository Federation: DRF)⁶ 参加大学のメンバーと共に英国のノッティンガム大学を訪問し、SHERPA/RoMEOデータベースの構築に携わっている方々とのミーティングを行いました。



写真1 SHERPAメンバーとともに

ミーティングでは、日本における著作権ポリシーの問題に対する取り組みとして、SCPJプロジェクトに関するプレゼンテーションを行うとともに、連携についても提案を行い、SHERPA側から大変ポジティブな回答を得ることができました。さらに、大阪大学において1月30日・31日に開催されたDRF国際会議2008⁷では、オーストラリアのOak Law Project⁸をはじめとして世界各国で同様の取り組みがなされていることや、それらを連携することによって国を超えたより大きな流れにしたいと考えていること、といった各国に共通した目標を確認するとともに悩みを共有することができました。今後は、たとえば著作権ポリシーに関する国際的ポータルサイトの構築といった、連携を実現する方策について検討していきたいと考えています。

5 終わりに

SCPJプロジェクトでは、学協会に対する独自の調査を継続的に行う一方で、より多くの学協会の著作権ポリシーを掲載するために、各IRで

実施している調査結果も共有したいと考えています。そこで、各IRの担当者の方が、SCPJデータベースで著作権ポリシーが確認できない学協会に対して、個別の論文についての許諾を得る際に、学協会としての著作権ポリシーについてもご質問いただき、内容の公表を可とする回答が得られた場合には、SCPJプロジェクトまでご連絡していただくことをお願いしています。SCPJのWebサイトには、著作権ポリシーについてご質問いただく際の参考のために、学協会への質問用のフォーマットを用意してあります。このフォーマットに基づいてお問い合わせいただければ、データベースへの登録がよりスムーズになりますので、ご活用いただければと思います。

SCPJプロジェクトでは、IRに関する著作権ポリシーをひとつのキーワードとして、そのステークホルダーである研究者（論文著者）や学協会関係者、そしてIR担当者に向けての有益な情報を発信するために、これからも努力していきたいと考えています。

筑波大学附属図書館

富田 健市（とみた けんいち）

斎藤 未夏（さいとう みか）

平田 完（ひらた かん）

scpj@tulips.tsukuba.ac.jp

1 Open Accessについては多くの文献があり、代表的なものとして以下のようなものが挙げられる。

* 倉田敬子『学術情報流通とオープンアクセス』勁草書房, 2007, 196p.

* レイム・クロウ『機関リポジトリ擁護論・SPARC声明書』

http://works.bepress.com/cgi/viewcontent.cgi?article=1006&context=ir_research

2 日本学術協力財団学会『学会名鑑2004～2006年版』ビュープロ, 2004, 1140p.

3 デジタルコンテンツ・プロジェクトの調査について詳しくは下記を参照のこと。

富田健市「日本の学協会における著作権の取扱い等について--機関リポジトリへの対応を中心として」『大学図書館研究』No.79, 2007.3, 200 pp.1-8.

4 日本学術協力財団学会『学会名鑑2007～2009年版』ビュープロ, 2007, 1145p.

5 <http://www.sherpa.ac.uk/romeo.php>

6 <http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/>

7 http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/DRFIC2008/index_ja.php

8 <http://www.oaklaw.qut.edu.au/>

Do you know SCPJ?

(By Ken-ichi Tomita and Mika Saito and Kan Hirata, University of Tsukuba Library)

SCPJ stands for "Society Copyright Policies in Japan"; a database provides a list of Japanese academic societies' copyright conditions. It is necessary to confirm the copyright policy of the journals and treat copyright of the papers appropriately in order to upload the papers published in scholarly journals to IRs. Then, in 2006, University of Tsukuba, Kobe University, Chiba University started SCPJ project funded by National Institute of Informatics, then built and opened SCPJ database, showing the status of permission to upload the papers of the academic society in Japan to IRs. In this paper, first, we describe outline of SCPJ project and database. Next, we report usage of SCPJ, suggest the value, and consider the situation of permission to upload the papers to IR of Japanese journals via data analysis of SCPJ. Finally we suggest some ideas as future direction.